

《平成19年10月30日午後1時00分 市民活動センター1階多目的ホールにて開催》

#### ★開会

苫小牧市公営企業調査審議会開会（委員20名中18名出席。条例による審議会開催の定足数を満たしている。）

#### ★岩倉市長挨拶

苫小牧市公営企業調査審議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶させていただきます。

委員の皆様におかれましては、本日も忙しい中ご出席をいただき、心から厚く御礼申し上げます。

市営バス、水道及び下水道事業の運営につきましては、市民生活の根幹をなすものとして安定した経営が求められているとともに、現在の厳しい市の財政状況を考えますと、これまで以上に重要な問題でありますので、これから2年間の任期でございますが、ご審議を賜りますようお願いいたします。

さて、市営バス事業につきましては、市民の足を守っていくには民間事業者への経営移譲しか道はないとの判断から、平成19年度から新経営5ヵ年計画を進め、24年度からの民間移譲を目指しているところであります。

また、水道事業と下水道事業につきましては、今月より水道部と下水道部が統合され、上下水道部として発足いたしております。両水道事業はともにおおむね良好な財政状況を維持しておりますが、将来収支が赤字になる恐れも否定できず、今後ともより一層の企業努力を継続し安定した事業運営をめざすとともに、市民のライフラインを支える「安全でおいしい水の安定供給と水源の保全」に努めてまいります。

水道の新庁舎建設につきまして、色々と議会でも議論され新聞報道もあったところでございますが、昨日開催されました議会代表者会議におきまして説明をさせていただき、本日の定例記者会見で方針の見直しにつきまして表明をさせていただきました。このことにつきましても皆様のご理解を賜りますよう心からお願い申し上げます。

本日は、特に諮問事項はございませんが、3事業の概要を説明させていただきますので、今後の審議の参考にさせていただきたいと存じます。

簡単ではございますが、審議会の開催にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

#### ★各委員自己紹介

#### ★市担当部長紹介（企画調整部【事務局】、上下水道部、交通部）

#### ★会長、副会長選出

会長に松原委員（苫小牧市町内会連合会推薦）副会長に佐藤秀文委員（苫小牧市商店街振興組合連合会）を選出

#### ★松原会長挨拶

ただいま会長に推挙されました、松原繁次でございます。苫小牧市町内会連合会の副会長を務めております。よろしくお願いいたします。

当審議会は10月に一部条例改正があったそうですが、水道、下水道、市営バスという3つの公営企業について色々と考えていこうという委員会でございます。この3つは苫小牧市民にとりましては毎日の暮らしに直接関わる事業でございます、これがなければ生きていけないという、まさしく命綱のような大事な事業であると思っております。そうであれば当然ながら、そうした事業で市民の安全、安心を考えた施設管理が行われる、それから将来的に健全な財政運営をしなければならない、ということであろうかと思いますが、我々市民は市役所にお任せするのではなく、私達の日常に直接関わるものであることから、そうした内容に目を向けていかなければならないであろうと、当然これは市民の責務でもございます。

本日は市長さんから話があったように、諮問はございませんが、いずれ諮問がなされまして、それについて調査、審議し、結果を答申するという手続になるかと思えます。審議会は内容が経営に関わることから非常に専門性が高い、それから色々なシビアな問題に直面することもあるかと思えます。

そうしたことを踏まえまして審議会がスムーズに進行、運営されますよう皆様のご協力をお願いいたします。

#### ★各事業概要説明

##### 【松原会長】

まず各事業の概要について一括して説明を受け、そのあと残り時間を見て質問等をお受けしたいと思えます。それでは、水道事業から説明をお願いします。

#### 水道事業の概要説明

##### 【上下水道部長】

先ほどご紹介させていただきました、上下水道部長の大塚でございます。

委員の皆様には、日頃から水道事業及び下水道事業に深いご理解とご協力を賜り、この場をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。

それでは、水道事業の概要につきまして、事前配布させていただいた冊子の「水道事業概要」に基づきまして、ご説明させていただきます。

#### 事業の沿革について

55年前の昭和27年に給水を開始以降、37年度及び49年度に拡張事業に着手し、高丘と錦

多峰の浄水場などの施設整備を図ってきた結果、今では給水普及率も行政区域内で99%、給水区域内では99.9%まで伸びております。

#### 事業認可の内容について

現在は、目標年次を平成26年に定め、計画人口182,000人に対して、1日最大給水量80,500m<sup>3</sup>の給水が可能となる事業を展開しているところでございます。

#### 部の組織について

本年10月1日付で水道部、下水道部を統合し、新たに上下水道部を設置いたしましたので、本日、配布させていただいた資料でご説明させていただきます。

まず、新しい組織は従来の2部13課23係を1部11課20係と改めまして、職員数は嘱託職員を含めると全員で173名となっております。

この組織統合の目的は、施設建設から維持管理の時代に移行している中で、変化に対応し安定した企業経営を推進する体制作りを目指すものでございます。これを機会に水道・下水道の両事業が一体となり、事業の効率化と経費削減、市民サービスの向上にさらに努めてまいりたいと考えております。

#### 水道施設とその能力について

水道水の取水河川は幌内川と勇払川、錦多峰川の3河川でして、施設能力は表に記載しておりますが、取水能力1日88,100m<sup>3</sup>、配水能力1日80,500m<sup>3</sup>でございます。このほか、非常用地下水源として幌内と高丘に地下水の取水場があり、2箇所ですべて1日12,000m<sup>3</sup>の取水能力を有しております。この水量は市民1人当たり約70リットルの水量となり、災害時に対応するものでございます。

#### 緊急災害用の機材について

日の出公園と錦多峰浄水場に貯蔵庫を備え、ライフライン確保のために給水タンク19台、ポリ容器34,390個、ポリ袋9,650袋などを保管しておりますが、このほか、日の出公園の地下には40m<sup>3</sup>の貯水槽を備えております。

#### 給水状況について

18年度の実績ですが、アルファベットHの年間総配水量は1,970万1,022m<sup>3</sup>、Iの1日最大配水量は昨年8月9日に記録した6万1,428m<sup>3</sup>、Jの1日平均配水量は5万3,975m<sup>3</sup>でした。浄水場の配水能力は1日8万500m<sup>3</sup>ですので、今のところ十分対応できる状態にあります。

なお、Nの有収水量は水道料金徴収の対象となった水量でして、年間1,692万2,548m<sup>3</sup>でした。

#### 水道料金について

料金は、平成6年度に値上げさせていただいた後、平成9年度に国の税制改革に伴う消費税率引き上げ分の転嫁をお願いし、現在に至っております。

家事用13ミリ口径の場合の1カ月の基本料金は、8m<sup>3</sup>まで1,050円プラス消費税ですが、これは全道35市の中でも安い方から7番目になっております。

#### 営業状況について

まず(1)18年度の給水件数は家事用72,397件、業務用6,086件、その他66件の合計78,549件でして、前年度に比べ580件の増となっております。

割合としては、家事用約92%、業務用約8%となっております。

(3)の収納状況では、18年度の調定額28億4,451万4千円に対し、収納額は27億4,394万8千円で、収納率は96.5%でした。

収納率は、前年比で0.1ポイントの減となりましたが、道内10万人以上の都市10市の中では依然トップを維持しております。

#### 19年度予算について

予算の概要につきましては、本日配布させていただきました「19年度水道事業予算の概要」でご説明させていただきます。

まず、左側の「収益的収支」ですが、これは経営状況を表しているもので、収入は水道料金や水道利用加入金などの31億7,252万1千円、支出は施設の維持管理費や人件費、国からの借入金の利息などの27億9,289万3千円でして、この差引額から消費税を除いた純利益は3億1,778万5千円と見込んでおります。

次に右側の「資本的収支」ですが、これは設備投資を表しているもので、収入は国からの借入金などの10億2,064万4千円、支出は配水管や施設整備費、国からの借入金の元金償還などの22億9,680万1千円でして、消費税を除いた収支差引は12億1,566万7千円の資金不足となっております。

なお、この資金不足を補う財源としましては、18年度の純利益見込額4億253万9千円のほか、内部留保資金を充てる予定でおります。

以上の結果、20年度への繰越額は純利益や内部留保資金などの10億4,550万円となる見込みが、19年度予算の主な内容でございます。

#### 諸活動について

水道事業への理解を深めていただくためには、市民と一体となって事業展開すべきとの考えから、広報やイベントにも力を注いでおります。特に、平成7年度から部内に広報委員会を設け、広報紙「水だより」の発行をはじめ、PR用看板やポスター、グッズなどを作製しているところでございます。

#### おわりに

以上が水道事業の概要ですが、近年の少子化や不安定な経済状況に伴い給水量の増加は見込めないものの、一方では老朽化した施設の整備が求められるなど、水道事業を取り巻く環境は非常に厳しいものがあります。

経営改善の一環として、コンビニでの料金支払システムや集金制度廃止など、事務事業の効率化に努めておりますが、今後も一層の経営効率化を図り、最小の費用で最大の効果を上げるよう職員が一丸となって努力してまいり所存でございます。

水道事業に対する委員の皆様のご理解とご指導をお願い申し上げ、ご説明を終わらせていただきます。

## 下水道事業の概要説明

### 【上下水道部長】

それでは、引き続き、下水道事業の概要につきまして、お手元に配付いたしました「苫小牧市下水道事業概要」により、ご説明いたします。

#### 事業の沿革について

本市の下水道につきましては、西町、高砂及び勇払の3箇所に下水処理センターを設置し、市街地の発展に歩調を合わせて、施設の改善や増強を図りながら処理区域を拡大し、対応してまいりました。

昭和27年に、北海道内の中でもいち早く下水道事業に着手し、その後、市民の皆様のご理解、ご協力をいただきながら積極的に事業を進めることができましたので、今日の高普及率まで押し上げることができたと思っております。

#### 下水道計画について

本市の下水道計画図でございますが、グリーンの線で囲んでいる区域が、行政区域のうち下水道計画の認可を受けている区域で、面積は5,357.2haでございます。

この中で、グレーの色塗りをしている部分が、平成18年度末までに整備した地域で、面積は4,439.0haで、前年度と比較いたしますと7.7ha拡大しております。

また、下水道管の総延長は1,341.9kmで、前年度と比較いたしますと、9.1km伸びております。

#### 下水道の普及状況について

各年度の下水道の普及状況を記載した表でございますが、人口普及状況欄の人口普及率欄のうち、D分のE欄をご覧ください。

この欄は、行政区域人口に対する処理区域人口の割合を示したものですが、18年度末では98.7%となっており、道内の人口10万人以上都市の中では、札幌市(99.6%)に次いで第2位にランクされる高い普及率となっております。

#### 下水道事業の財政状況について

一般的には、下水道は施設型の事業と言われ、その建設のためには多額の資金が必要となりますが、国の補助金、企業債の借入れ、土地所有者等からの受益者負担金、市費などを財源としております。

また、下水道整備の進展に伴い拡張した施設の維持管理費などについては、下水道使用料や市費

などで賄われております。

各年度の建設事業費と財源内訳、また、維持管理のための経費と収入について表した収益的収支の推移について記載しておりますので、後ほどご参照いただきたいと思います。

#### 決算状況について

平成17年度は、消費税を除いた収益的収支で1億8,573万5千円の純利益を計上することができましたが、資本的収支では10億5,172万4千円が不足となり、この不足額は、内部留保資金などで補てんしております。

資金状況につきましては、17年度末累計額で11億4,739万1千円となっておりますが、これについて少し説明させていただきます。

国では、下水道施設整備のために借入れた企業債の償還期間（25年）とこれに係る資金回収のための減価償却期間（平均44年）にギャップがあるため、この差を平準化させる等の目的で、平成16年度に新たに資本費平準化債（拡大分）を整備いたしました。

本市においては、16年度の導入は見送りましたが、17年度の予算編成に当たり、一般会計が極めて厳しい財政状況となったことから、下水道会計に繰出されてきた政策的な繰出金【平成6年度の料金改定時における公営審議会の答申に基づくもの】が全額削減されることになったため、使用料値上げの先送りを見据え、また、資金的な余力を蓄えておくために、低金利のときに借入れた方が得策であると判断し、ほぼ限度額一杯の8億円を借入れした結果でございます。

なお、18年度決算につきましては、議会での決算審査が終了していないため、この概要には掲載しておりませんのでご了承願います。

#### 19年度予算について

次に、今年度の予算についてですが、別紙資料として配付いたしております「平成19年度下水道事業会計予算の概要」をご覧願います。

はじめに、収益的収支についてですが、差引欄の消費税を除いた純利益で1億9,996万4千円を見込んでおります。

また、資本的収支については、16億4,868万4千円の資金不足を見込んでおりますが、前年度の純利益や減価償却費などの内部留保資金で補てんし、繰越資金として5億2,863万3千円を予定しております。

今年度の主な事業としましては、管渠工事では、17年度から施工を開始した合流改善事業及び錦岡地区をはじめとする幹線と枝線管渠の合計延長5,613mの整備、ポンプ場では、幌内川中継ポンプ場で除じん機の更新及び沼ノ端中継ポンプ場でインバータ盤、汚水ポンプの更新など、また、下水処理センターでは、高砂下水処理センターで、水処理等のトップライトの更新、西町下水処理センターで、昨年度から2ヵ年の継続事業である中央監視制御設備の更新や汚泥調整槽の防食工事、勇払下水処理センターで、水処理施設の増設などを予定しております。

これらの事業費として、建設改良費で27億7千万円を予算計上し、既に、執りかかっているところでございます。

なお、次年度以降においても、市街地の管渠整備はもとより市中心部の合流改善事業に係る面的

整備、さらには老朽化が著しい設備等の維持更新など、先延ばしできない事業が山積しており、下水道の財政状況が厳しい中で計画的に取り組まなければならないと考えております。

#### 受益者負担金について

これは建設費の一部に充てるために、都市計画法に基づき「本市の都市計画下水道事業受益者負担に関する条例」を定め、昭和43年から賦課徴収を行ってきております。

現在までに、段階的に4つの負担区を設定しておりますが、各設定時期及び負担金額等については、後ほど、表をご参照いただきたいと思います。

#### 公共下水道事業分担金について

公共下水道事業のうち、都市計画事業以外に係る受益者に対し、別途、受益者負担金に関する条例と同様の条例を定めて、18年2月から賦課徴収を行っているものでございます。

この分担区等については、表のとおりとなっております。

#### 下水道の使用料について

現行の使用料体系は(1)の表に記載しているとおりで、平成6年4月の料金改定から13年目を迎えております。

先ほど、財政状況や保留しておけない事業が山積しているのご説明をいたしましたが、繰越資金が年々減少してきており、今後、一般会計からの繰出金の増額を見込めない状況が続いた場合、使用料改定の検討をしていかなければならないと考えております。

なお、当面は、支出の抑制のために、さらなる経費の節減は勿論のこと、収入確保については、状況に応じて、平準化債の再度の借入れなど、企業として効率的・効果的な事業を展開していくために十分検討し、最大限の努力をしてまいりたいと考えております。

以上、簡単でございますが、下水道事業の概要について、説明を終わらせていただきます。

## 市営バス事業の概要説明

### 【交通部長】

委員の皆様には、日頃から市営バス事業に対しまして格段のご理解、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。この場をお借りいたしまして、厚くお礼申し上げます。

それでは市営バス事業の概要につきまして、お手元の冊子「とまこまい市営バス平成19年度版事業概要」からご説明申し上げます。

#### 事業のあらましについて

市営バス事業の事業区域は、乗合バスは苫小牧市行政区域内でございます。貸切事業は、苫小牧市及び隣接市町となっております。乗合の免許キロは182.48kmでございます。系統は乗合で77系統23路線、1系統で最長41.8km、最短1.7kmとなっております。車両数は9



6台、乗合で91台、貸切で5台でございます。輸送人員は平成18年度実績で4,174千人、乗合で4,079千人、貸切で95千人でございます。

停留所は288箇所でございます。停留所の区間距離は、最長で3.5km、最短で200mとなっております。

#### 事業のあゆみについて

市営バス事業は、昭和25年8月25日に乗合事業の営業を開始しております。平成19年で創業57周年になります。昭和26年5月19日には貸切事業の営業を開始しております。

平成14年4月1日に新経営健全化5ヵ年計画がスタートしております。錦西営業所管轄の6路線及び学生便2便の運行管理業務を民間バス事業者に委託しました。委託車両は10両でございます。

平成19年度では委託路線は21路線、学生便5便、委託車両37両でございます。

平成19年4月1日に新経営5ヵ年計画がスタートしております。この計画は平成24年4月のバス事業の全面民間移譲を前提として、現行路線を維持し利用者の利便性を確保するとともに、単年度収支の黒字により不良債務の削減を図り、経営の健全化を図っていく計画でございます。

#### 組織について

交通部は、1部2課となっております。平成18年4月からは次長職を置いております。課は総務課、輸送課の2課体制でございます。係数は総務課で総務係、財務係、整備工場、輸送課では営業係、輸送係、営業所は錦西営業所と駅前営業所となっております。

#### 平成18年度 路線別収支状況について

収支率が一番良い路線は上から3番目の03番鉄北北口線でウトナイ団地から交通部・駅北口を経由してアルテンまでの路線でございます。この路線の収支率は110.8%となっております。逆に収支率が最低の路線は下から2番目の43番錦西樽前ガロー線で錦西営業所から樽前地区を運行する路線でございます。この路線の収支率は8.1%となっております。全体の収支率は70.6%でございます。

#### 営業状況について

営業状況の乗車人員についてですが、中ほどの表で、現金では乗車人員が1,031,004人で25.28%、回数券では1,221,452人で29.94%、老人・身障乗車券では、1,273,118人で31.21%、通学定期では291,491人で7.15%、通勤定期では261,743人で6.42%、合計で4,078,808人となっております。

#### 平成18年度 決算概要（新経営健全化5ヵ年計画との比較）について

次に、資料として配布してあります「平成18年度決算概要、新経営健全化5ヵ年計画との比較」につきましてご説明いたします。



表の中ほどの決算額Cでございますが、収益的収入で1,639,845千円、収益的支出で1,516,537千円、差引で123,308千円の黒字でございます。資本的収入で26,267千円、資本的支出で723,619千円となっております。

長期借入金解消額は684,206千円となっておりますが、これは平成18年度の決算から一般会計の会計処理の変更により、今までは事業の資金不足の補填は一般会計からの長期借入金によっておりましたが、これを廃止して、金融機関等から調達した借入金で補填することとなったため、一般会計からの長期借入金を全額返済したもので、最後の行には金融機関から借り入れた549,029千円が不良債務として発生しております。

なお、計画では長期借入金残高は734,438千円でしたが、決算では不良債務額は549,029千円となり、計画よりも185,409千円不良債務の解消が進んでいる状況でございます。

以上簡単でございますが交通事業の説明を終わらせていただきます。今後とも皆さまの安全輸送、利便性の向上を目指して事業経営を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

#### ★閉会

##### 【松原会長】

会議終了のお時間が迫ってまいりましたので、ここでの会議はこれで一旦終了いたしまして、これから施設を見学にまいりますので、疑問な点がありましたらそれぞれの施設で質問していただきたいと思っております。

事務局より質問等は後日文書で回答する旨説明

それでは以上をもちまして、終了させていただきます。ありがとうございました。